

## 主はサラを顧みられた

(創世記21・1〜8)

## 一、人の約束は当てにならない

唐突ですが、皆さまは、だれかにお金を貸して返って来なかった体験はお持ちでしょうか。おそらく、あると思います。もう50年も前の話ですから、講壇から語ってもかまわないと思います。が、……「以下は、ユーチューブの録画でご視聴ください」。

## 二、神は約束を果たされる

神は約束を果たされるお方です。1節をご覧ください。主は約束したとおりに、サラを顧みられた。主は告げたとおりに、サラのために行われた。とあります。主がサラに約束されたことは、何だったのでしょか。2節をご覧ください。主は身ごもり、神がアブラハムに告げられたその時期に、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。とあります。サラが男の子を産んだ時、何歳だったでしょうか。90歳でした。5節より分かります。アブラハムは、その子イサクが彼に生まれたとき、百歳であった。とあります。サラはアブラハムより10歳年下だったので、90歳ということになりません。

神は約束を果たされるお方です。アブラハムに告げられた主の約束は、18

章に現れます。ある日のこと、主ご自身と二人の御使いがアブラハムに現れました。彼らのうちの一人がアブラハムに言いました。18・10b「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのところに戻って来ます。そのとき、あなたの妻サラには男の子が生まれています。」サラはその人のうしろの、天幕の入り口で聞いていた。と。サラには信じられませんでした。そして心の中で笑って、言いました。18・12b「年老いてしまったこの私に、何の楽しみがあるでしょう。それに主人も年寄りで。」と。それは、神の言葉を信じない、不信仰の笑いでした。サラは否定しましたが、主はご存じでした。はたして主は、約束したとおりにサラを顧みられました。

ですが主が約束を果たされたという事実は、もっと大きなスパンで捉える必要があります。すなわち、サラがアブラハムの子を産んだのは、単に一年前に主がアブラハムに語った約束を果たされたものではありません。以前に、主がアブラハムに語られた約束が果たされるために、どうしても必要なことでした。主はアブラハムに語られました。創世記12章1節から3節です。12・1〜3 イサクの誕生は、主がアブラハムに語られた壮大な約束であり、主の御計画が実現するための、目に見える一歩でした。アブラハムとサラはイサクの成長を見る度に、神には約

束されたことを成就する力があると実感していたはずですが、主がおおえになることは、常に私共の思いを超えています。次の章の22章に入りますと、こういうことばが書かれています。22章1節、2節です。これらの出来事の後、神がアブラハムを試練にあわせられた。(略)神は仰せられた。「あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、わたしがあなたに告げる一つの山の上で、彼を全焼のささげ物として献げなさい。」と。ですがご存じのように、神はアブラハムを試練に遭わせられたものの、アブラハムに語られた約束を果たされました。

## 三、キリストによって約束が

きょうの聖書箇所は、主がアブラハムになされた約束を果たされ、アブラハムに語られた約束が目に見える形で現された箇所ですが、私たちにはどのような意味合いを持つのでしょうか。その場合の「私たち」とは、神が遣わされた主イエス・キリストを信じる「教会」のことです。コリント人への手紙第21章20節に、気になることばがあります。主の約束はことごとく、この方において「はい」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン」と言い、神に栄光を帰するのです。1世紀の時代、すなわち新約の文書が

書かれた時代に、神の民となったキリスト者の大半が、元異邦人でした。すなわち、ユダヤ人ではなく、神の約束については対象外でした。ですが、主イエス・キリストの贖いにより、主イエスを信じることにより、神の民とされることにより、神の約束はことごとく、この方(主イエス・キリスト)において「はい」となりました。

ということばは、旧約に書かれている神の約束は、主イエス・キリストにおいて、ことごとく私たちのものとなりました。主がアブラハムに語られた約束のことばである(創世記12・3)わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろふ。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。今や、私たちに語られていると受け止めてかまわないわけです。神の約束はことごとく、主イエス・キリストにおいて「はい」となったからです。

私共が立つのは、神のことばであるキリストの福音です。そしてキリストの福音を証言している聖書です。神であられるキリストが人として生まれられ、この方が十字架で贖いの死を遂げてくださったことにより、それを信じる者は、神と私共を隔てている罪の問題が解決され、神の約束がことごとく私共のものになったという福音です。この福音、すなわち神のことばに立ち、歩んで行く者でありたいです。